
横浜市住生活マスタープラン

（横浜市住生活基本計画）

2022～2031

2022（令和4）年〇月

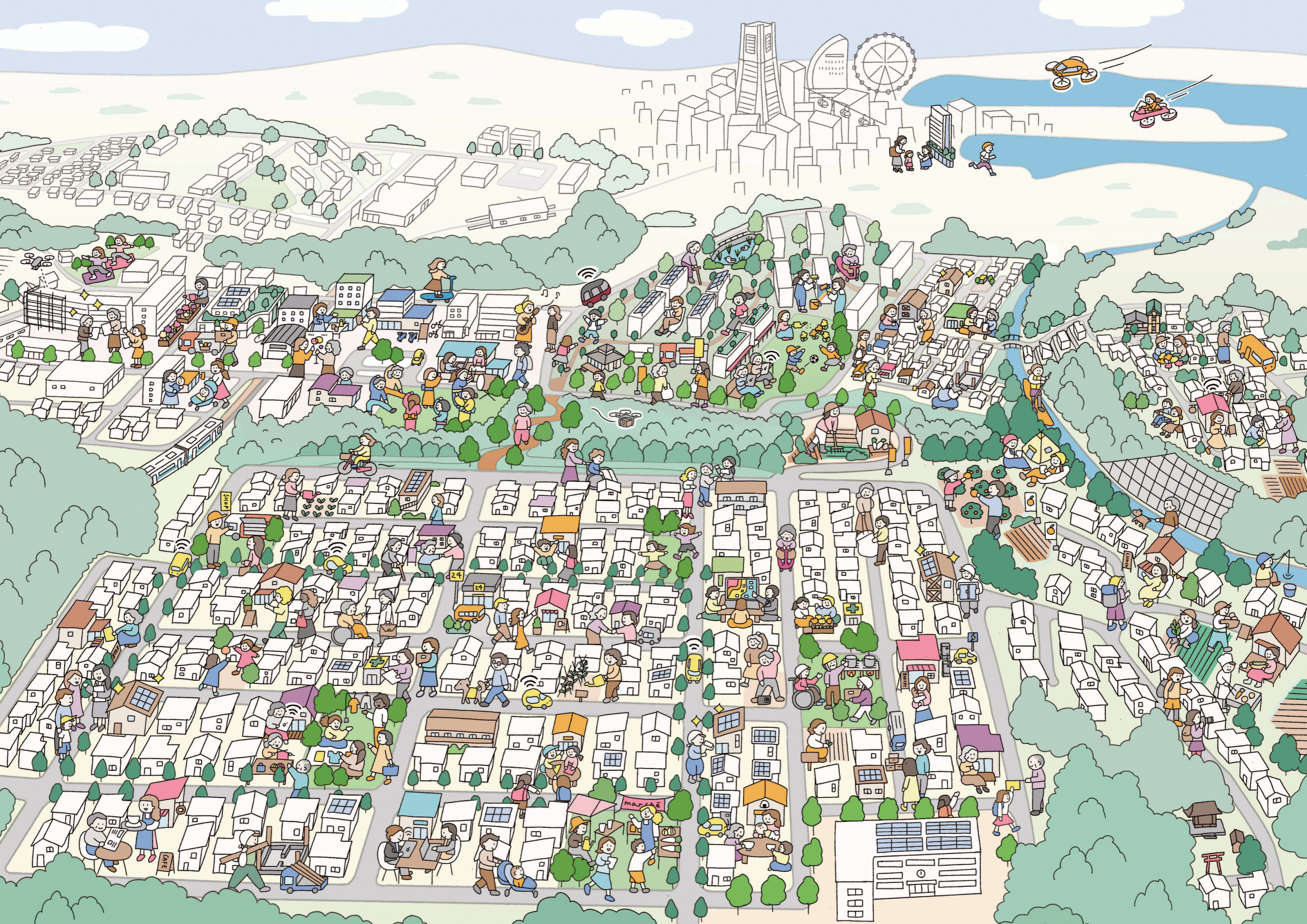
横浜市 建築局

素案（案）

目次

はじめに

第1章	横浜の住生活を取り巻く動向等
1-1	計画の目的等
1-2	住宅政策のこれまでの経緯
1-3	住生活を取り巻く状況
1-4	住生活を巡る近年の動向
第2章	住宅施策の取組の方向性
2-1	目指すべき将来像
2-2	将来像の実現に向けた視点・目標
2-3	各施策に横断・共通する基本姿勢
第3章	施策の展開
【目標1】	新たなライフスタイルに対応し、多様なまちの魅力を活かした、豊かな住宅地の形成
【目標2】	災害に強く、安全な住まい・住宅地の形成と被災者の住まいの確保
【目標3】	多様な世帯が健康で安心して暮らせる住まい・コミュニティの形成
【目標4】	住宅・福祉施策が一体となった重層的な住宅セーフティネットの充実
【目標5】	脱炭素社会の実現に向けた良質な住宅ストックの形成
【目標6】	マンションの管理適正化・再生円滑化の推進
【目標7】	総合的な空家等対策の推進
第4章	計画の実現に向けて
4-1	多様な主体による連携
4-2	社会経済状況の変化等に応じた柔軟かつ機動的な施策展開
4-3	進捗管理
参考資料	



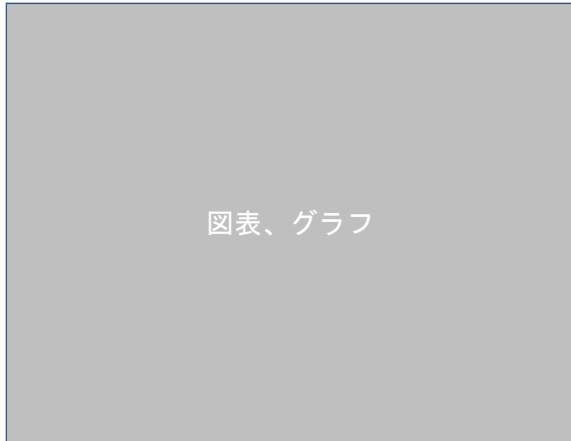
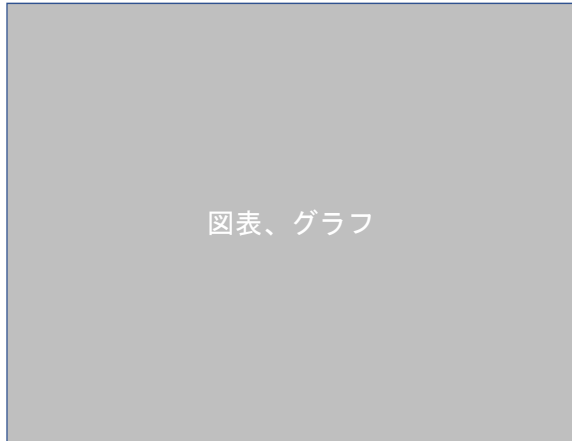
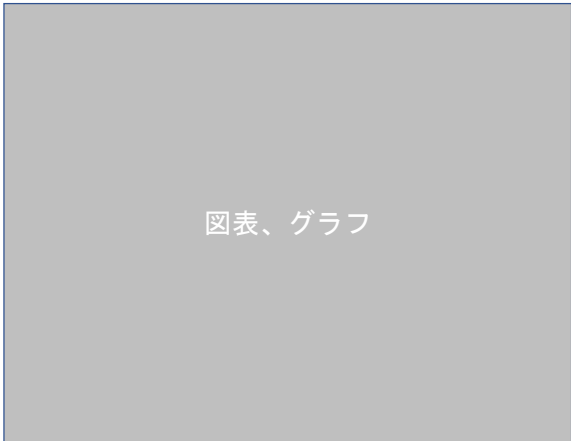
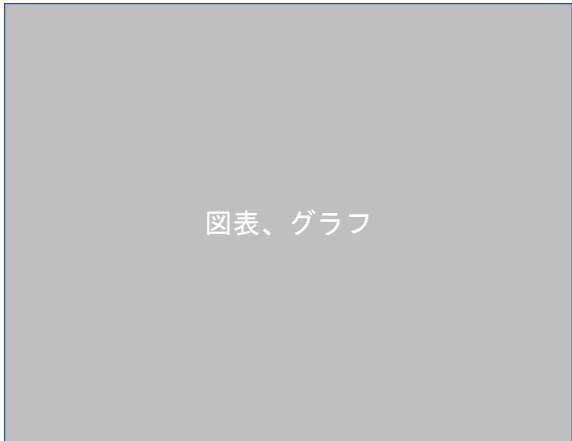
第3章 施策の展開

目標1

新たなライフスタイルに対応し、多様なまちの魅力を生活かした、豊かな住宅地の形成

◆現状と課題

○
○
○
○
○
○
○
○



◆施策展開の方向性

.....

.....

.....

.....

.....

.....



《基本的な考え方》

○

.....

.....

○

.....

.....



◆成果指標

	項目	現状	目標
1	「住宅及び住環境に対して満足」と思う市民の割合	81.9% (H30/2018)	増加 (R10/2028)
2	「市内での定住意向」のある市民の割合	76.6% (R3/2021)	増加
3	「街並みや景観の形成・保全に対して満足」している市民の割合【住み】	17.1% (R3/2021)	増加
4	横浜に住み続ける理由として「買い物、医療などの生活環境が整っているから」の割合【住み】	35.2% (R3/2021)	増加
5	横浜に住み続ける理由として「通勤・通学に便利だから」の割合【働き】	30.1% (R3/2021)	増加
6	横浜に住み続ける理由として「余暇や休日を楽しく過ごせる場所だから」の割合【楽しみ】	19.1% (R3/2021)	増加
7	「近隣の人たちやコミュニティとの関わりに満足」と思う市民の割合【交流】	76.7% (H30/2018)	増加 (R10/2028)

◆施策体系

1-1	多様な世代が住み、働き、楽しみ、交流できる『郊外住宅地』の形成【重点】	①郊外低層住宅地
		②郊外駅周辺複合市街地
		③郊外大規模団地
1-2	鉄道沿線地域ごとの特性や市民力を活かした持続可能な郊外住宅地再生の推進	
1-3	都心部と都心・臨海周辺部ならではの特性や魅力を生かした生活環境整備	①都心部
		②都心周辺旧市街地
		③都心周辺丘陵地

1-1 多様な世代が住み、働き、楽しみ、交流できる『郊外住宅地』の形成【重点】

①郊外低層住宅地

○

○

○



【〇〇〇〇制度】

○

○



《コラム》〇〇〇〇〇

○

○



②郊外駅周辺複合市街地

○

○

○



◆事業・取組一覧

●…実施・推進 ○…検討・実施

		主な具体施策	概要	2022-2026	2027-2031
1 1	①	〇〇〇事業	●	●
		〇〇〇の検討	○	●
		〇〇〇制度	●	●
		〇〇〇事業	●	●
		〇〇〇の検討	○	●
		〇〇〇制度	●	●
		〇〇〇事業	●	●
	②	〇〇〇の検討	○	●
		〇〇〇制度	●	●
	③	〇〇〇制度	●	●
〇〇〇事業		●	●	